

# 阿南 ぶらりまち紀行

ふるさと「阿南市」のすばらしい魅力を再発見！

～地域の輝き～

第86回

お接待の心が息づくまち、大井町



県外から訪れたお遍路さんに「大井町の印象」について問うと、ほとんどの方は「心が癒される」と答える。「もう一度訪れたい、住んでみたいまち」ともいう。何が、人々を惹き付けるのか。そこには「お接待」という名の美しい風習が存在していた。

阿南市の西端、那賀川に面する山間のまち、大井町。四国霊場第20番札所鶴林寺と第21番札所太龍寺とを結ぶ遍路道が町中を通り、四季を通じてお遍路さんが訪れる。「居ながらにして全国各地の人々と日常的に触れ合えるのは、市内でもこ

「おにぎりを作って差し上げたり、タクシーを手配したりすることは日常茶飯事時に、ロープウェイまで車で送り届けてあげることもあります。お遍路さんを大切にしている気持ちは、どこのまちよりも強いと思います。」と、総代の井出達海さん(69歳)は熱く語ってくれた。



東屋に備え付けられた道案内板と杖



遍路道やお庵の清掃、墓守は定期的に行われている。外国人のお遍路さんもしばしば訪れ、お接待の心は国境を越えている。

かつて大井町が村だった時代、お遍路さんの宿場町として栄えた。村には3軒の宿があり、1軒に60人のお遍路さんが宿したことは、今でも語り草となっている。そもそもこの周辺の遍路道は「遍路ころがし」と呼ばれ、急峻な山道が続く。過酷な旅路にあつて「お遍路さんはお大師さんと同じ」と、食べ物や宿を提供してきたのだ。これがお接待である。お接待という風習を通して、お遍路さんと地元の人々との交流が生まれ、今に受け継がれている。モノを与えるだけでなく、優しく声をかけ、道案内するのをもまた、立派なお接待であることを大井町の人々は教えてくれた。

今夏、地元の中学生が、お遍路さんにアンケート調査を行った。そのほとんどに「宿題がんばって」と、励ましの言葉が添えられていたという。この温かい心の交流が、お接待の精神を育み、地域の誇りとして受け継がれていくのだろう。